

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

京都府、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、亀岡市、長岡京市、京丹後市及び南丹市並びに京都府乙訓郡大山崎町及び船井郡京丹波町並びに兵庫県丹波篠山市及び丹波市

3 地域再生計画の区域

京都府福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、亀岡市、長岡京市、京丹後市及び南丹市並びに京都府乙訓郡大山崎町及び船井郡京丹波町並びに兵庫県丹波篠山市及び丹波市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

亀岡市、長岡京市などの京都市周辺都市、福知山市、舞鶴市などの京都府中・北部の中心都市などは、福知山城、丹波・亀山城などの多くの城跡・史跡の観光資源があるにも関わらず、国内を移動して京都市などの観光都市を訪れる観光客や京都舞鶴港に寄港する主にアジア系の外国人が主となる国際クルーズ船（H29年度：39寄港）観光客が「一足伸ばす」動機付けや「周遊観光」ができるテーマの設定に成功したとは言えず、城跡、史跡の観光資源を活用しきれていない。現状では、京都市のH29年の観光客数は5,363万人（1人あたり観光消費額約21,000円）、隣接する亀岡市はJR等で20分程度の距離にあるものの、約291万人（1人あたり観光消費額約2,600円）となっており、また、京都舞鶴港のクルーズ客が1時間程度で移動できる京丹後市・宮津市や丹波市などの周辺地域への消費に十分波及していない。

また、少子高齢化や大都市圏への人口流出により中心市街地そのものの高齢化、空洞化が進み、担い手不足が進むことで、周遊観光を楽しむ観光客を十分に満足

させるレベルで地域資源を十分に活かした観光戦略を展開しているとは言い切れない現状である。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

京都府の人口は2004年の約265万人をピークに今後60年で約222万人まで減少すると予測されている。そのため、京都府は観光客の増（交流人口の増）により活性化を図り、従前と同程度以上の経済活動を確保しようとしており、年間約5,300万人の観光客を受け入れる京都市を核に「一足伸ばし」の観光を推進するとともに、インバウンド・周遊観光客を受け入れるホテル等の拠点の整備を京都市以外の各地でも進めており、現在京都市を除く府内の観光客はH26年比118%増の約3,325万人と順調に伸びている。

平成32年にNHK大河ドラマ「麒麟がくる」で京都府内の各「城跡」「寺社」が舞台となるタイミングを踏まえ、主役の明智光秀の居城である福知山城、丹波・亀山城の「城下町」などにおいて、その由来から交通結節点や中心市街地が重要な観光資源である「城跡」「寺社」の周辺に集結していることを活かして「レガシー」を核とした周遊観光や街の交流人口受入を促進、ひいては地域に担い手や「稼ぐ力」が残り、地域が活性化する事を目指す。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2019年度増加分 1年目	2020年度増加分 2年目
大河ドラマ「麒麟がくる」関連観光スポットの観光入込客数 (福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・亀岡市・長岡京市・京丹後市・大山崎町・南丹市・京丹波町・丹波市・丹波篠山市) (万人)	418.00	23.00	29.00
大河ドラマ「麒麟がくる」関連の観光スポットの観光消費額(福知山市・舞鶴市・	202.00	8.00	15.00

綾部市・宮津市・亀岡市・長岡京市・京丹後市・大山崎町・南丹市・京丹波町・丹波市・丹波篠山市) (億円)			
京都舞鶴港におけるクルーズ船の寄港数 (年間) (回)	23.00	5.00	5.00

2021年度増加分 3年目	KPI増加分 の累計
5.00	57.00
9.00	32.00
5.00	15.00

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト事業

③ 事業の内容

2020年の大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公明智光秀や細川幽斎などの活躍する舞台の多くが「中心市街地にある城跡、寺社」であることを活かし、大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会を中心に広域プロモーション事

業を行い、大河ドラマによる集客効果を活かして各エリア間の周遊観光を促進するとともに、空き家・空き店舗や道の駅等を活用して起業・創業を支援することで各地域の「稼ぐ力」につなげる他、交流人口拡大とこれを契機にした地域特産品等の開発と各地域ブランドの定着による地域経済の活性化を図る。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会が、観光振興・城下町エリアの活性化を図る各種事業を展開して自主財源の増加を図るとともに、中心市街地の活性化については商店街等地域商店の自立を促すなど、各自治体における一般財源の確保等自立的な事業展開を図る。

【官民協働】

大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会、大丹波観光推進委員会を中心に、観光産業による地域経済の循環の実現に向けた各種事業を、府・市町と観光協会・地元商店街・宿泊業者等が協力し、それぞれの役割分担の下、展開する。

【地域間連携】

大河ドラマ「麒麟がくる」を統一テーマに、広域自治体である京都府と、JRや道の駅を活用して周遊観光を促進しつつ、「城下町」レガシーを有する市町が次のような役割分担のもと、広域的に連携しながら周遊性とリピート性の向上による持続的な交流人口の拡大・各エリアの経済活性化を図る。

【政策間連携】

本事業は、「城下町」レガシーを核とした観光により交流人口の拡大を図りつつ、空き家活用や起業・創業による雇用創出、地域特産品等の販売増の跳ね返りとして地場産業の活性化を図る。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

各広域連携自治体において、毎年度、3月末時点のKPIの達成状況を地方創生担当部署が取りまとめる。

【外部組織の参画者】

各広域連携自治体において、有識者や議会の関与を得ながら検証結果報告をまとめる。

【検証結果の公表の方法】

各広域連携自治体において、必要に応じて地方版総合戦略や今後の事業経営方針に反映させる。検証結果は毎年度、ホームページ等で公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 611,339千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2022年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2022年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥に掲げる【検証結果の公表の方法】に同じ。